



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 高松機械工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6155 URL https://www.takamaz.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)高松 宗一郎  
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役 管理本部長 (氏名)四十万 尚 (TEL) 076-274-1410  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	11,731	△3.9	219	△70.0	315	△59.7	231	△57.5
2022年3月期第3四半期	12,201	22.9	731	—	782	—	546	—

(注) 1 包括利益 2023年3月期第3四半期 664百万円( 4.7%) 2022年3月期第3四半期 634百万円( —%)

2 2022年3月期第3四半期の経常利益の対前年同四半期増減率は、1,000%を超えるため、「—」と記載しております。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	21.42	—
2022年3月期第3四半期	50.08	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	24,291	16,832	69.3
2022年3月期	25,363	16,301	64.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 16,824百万円 2022年3月期 16,296百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	7.00	12.00
2023年3月期	—	6.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	9.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,610	5.3	803	△26.5	932	△21.0	703	△11.5	64.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	11,020,000株	2022年3月期	11,020,000株
2023年3月期3Q	188,012株	2022年3月期	203,957株
2023年3月期3Q	10,823,870株	2022年3月期3Q	10,903,032株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国におけるゼロコロナ政策による経済活動規制をはじめ、ウクライナ問題やサプライチェーンの混乱、物価上昇などが継続したほか、世界的な金融引き締めや急激な為替の変動など、依然として不透明な状況で推移しました。

当社グループの主力分野である工作機械業界においては、活発な設備投資の動きがあったことから、2022年暦年の業界受注総額の実績は、前年同期比14.2%増の1兆7,596億円と、2018年に次ぐ高水準となりましたが、外需では金利上昇やインフレによる設備投資意欲の減退、半導体需要の一巡、中国のゼロコロナ政策転換後の先行き懸念、内需では自動車向けの回復遅れが続くなど、足元では様々なリスクが山積しています。

このような状況の中で、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結売上高は前年同期に比べ4億70百万円(3.9%減)減収の117億31百万円となりました。営業利益は2億19百万円(前年同期比70.0%減)、経常利益は3億15百万円(同59.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億31百万円(同57.5%減)となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 工作機械事業

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、受注高が96億50百万円(前年同期比3.3%減)、受注残高が69億83百万円(同14.0%増)、売上高が104億71百万円(同3.6%減)、営業利益が1億74百万円(同74.1%減)となりました。

受注高の地域別内訳は、国内向け及び北米向けが堅調に推移した一方で、アジア向けが大幅に減少したほか、ヨーロッパ向けも減少した結果、内需が70億11百万円(同8.3%増)、外需が26億38百万円(同24.7%減)となりました。

売上高の地域別内訳は、北米向けが大幅に増加した一方で、国内向け、アジア向け及びヨーロッパ向けが減少した結果、内需が60億76百万円(同14.9%減)、外需が43億94百万円(同18.3%増)、外需比率が42.0%(前年同期は34.2%)となりました。

第3四半期連結累計期間における主な取り組みとして、中国を除く各国で新型コロナウイルスの感染症対策が進展し、経済活動の動きが活発化したことから、国内ではJIMTOF2022、海外ではイタリアのBIMU2022やタイのMETALEXへ出展するなど、積極的な営業活動を行いました。11月に開催されたJIMTOF2022では、「省人化、カーボンニュートラル、DX」をテーマに、ベストセラー製品「XT-6」から更なる小型化を追求し、業界クラス最小のフロアスペースを達成した新機種「XTS-6」や、シングル旋盤1台分のコンパクトなスペースで、ビルトインモータ主軸2基搭載による高精度・高効率の生産を可能とする新機種「XWG-3」などを実機展示したほか、ワークショップも開催し、新たな自動化ソリューションの提案も行いました。4年ぶりのリアル開催となった本展示会では、当社ブースに多数のご来場をいただき、目標を上回る引合・受注をいただくことができました。また、多品種少量生産向け省人化装置「ServoROT」システムの実機展示も行い、喫緊の課題となっている人手不足を解決する手段として、全国のユーザから高い注目をいただきました。更に、複雑化、高度化するユーザニーズに対応するため、全社横断で取り組みを進め、受注前段階での技術部員の客先同行訪問を行い、引合段階での積極提案に取り組みました。このほか、デジタル販促資料の充実やWEBを活用したお客様との接点の強化にも努めました。

生産面では、RPA導入による生産現場の作業効率化や、データ監視システムの構築など、IoT技術の活用を進めました。また、部品調達難や材料費高騰の影響が継続したため、先行発注や代替品の調達による安定生産や原価低減活動に努めました。なお、原材料価格等の高騰に対応するため、機械本体や各種オプション等の販売価格の改定を行っています。

設備投資面では、中期計画2024に基づき、本社工場の生産能力向上を進めており、荒加工用の横型マシニングセンタを導入しました。本設備により、自動搬送による長時間の無人運転が実現でき、更なる加工リードタイムの短縮が可能となります。また、従来は工場内の階層を移動していた組立作業を1階に集約し、生産性を向上させることを目的として、精密組立室の移設工事に着手するなど、本社工場内のレイアウト見直しも並行して進めています。

#### ② IT関連製造装置事業

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が10億34百万円(前年同期比7.6%減)、営業利益が63百万円(同20.2%減)となりました。

新規案件開拓による貢献があったものの、半導体の需要が一服しているほか、一部製品では部品調達難が継続し、生産への影響が長引いているため、売上高、営業利益ともに減少しました。

## ③ 自動車部品加工事業

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が2億25百万円(前年同期比0.6%増)、営業損失が18百万円(前年同期は25百万円の営業損失)となりました。

取引先である自動車メーカー等の需要は、不安定ながらも徐々に回復傾向にあり、売上高は前年度とほぼ同水準となりました。利益面では、受注数量に見合った柔軟な生産対応やコスト削減に努めた結果、赤字幅が減少しました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は242億91百万円で前連結会計年度末に比べ10億71百万円の減少となりました。

区分別にみますと、流動資産は154億84百万円となり、前連結会計年度末に比べて6億83百万円減少しました。その主な要因としては、棚卸資産が13億82百万円、電子記録債権が8億11百万円増加したものの、現金及び預金が19億9百万円、受取手形及び売掛金が6億10百万円、流動資産のその他(未収消費税等)が3億58百万円減少したことによるものです。

固定資産は88億7百万円となり、前連結会計年度末に比べて3億88百万円減少しました。その主な要因としては、投資その他の資産のその他(保険積立金等)が1億46百万円減少したことによるものです。

次に当第3四半期連結会計期間末の負債は74億59百万円で前連結会計年度末に比べて16億2百万円の減少となりました。

区分別にみますと、流動負債は65億13百万円となり、前連結会計年度末に比べて15億56百万円減少しました。その主な要因としては、電子記録債務が3億6百万円、支払手形及び買掛金が2億84百万円増加したものの、流動負債のその他(営業外電子記録債務等)が17億90百万円、未払法人税等が2億69百万円減少したことによるものです。

固定負債は9億45百万円となり、前連結会計年度末に比べて46百万円減少しました。その主な要因としては、長期借入金が37百万円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は168億32百万円で前連結会計年度末に比べて5億31百万円の増加となりました。その主な要因としては、為替換算調整勘定が4億8百万円増加したことによるものです。なお、自己資本比率は69.3%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年10月31日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,056	4,146
受取手形及び売掛金	2,846	2,236
電子記録債権	3,360	4,172
商品及び製品	901	1,582
仕掛品	1,369	1,960
原材料及び貯蔵品	1,016	1,127
その他	620	262
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	16,167	15,484
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,066	3,891
土地	2,461	2,418
その他（純額）	1,032	991
有形固定資産合計	7,560	7,300
無形固定資産	44	62
投資その他の資産		
その他	1,625	1,479
貸倒引当金	△34	△34
投資その他の資産合計	1,590	1,444
固定資産合計	9,195	8,807
資産合計	25,363	24,291

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,350	1,635
電子記録債務	2,799	3,106
短期借入金	690	690
未払法人税等	290	21
賞与引当金	171	95
役員賞与引当金	30	22
製品保証引当金	45	41
その他	2,691	900
流動負債合計	8,069	6,513
固定負債		
長期借入金	285	248
退職給付に係る負債	436	444
その他	270	253
固定負債合計	992	945
負債合計	9,062	7,459
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,789	1,780
利益剰余金	12,340	12,431
自己株式	△169	△156
株主資本合計	15,794	15,890
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	86	125
為替換算調整勘定	319	728
退職給付に係る調整累計額	96	79
その他の包括利益累計額合計	501	933
新株予約権	—	2
非支配株主持分	4	5
純資産合計	16,301	16,832
負債純資産合計	25,363	24,291

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	12,201	11,731
売上原価	9,065	8,762
売上総利益	3,135	2,968
販売費及び一般管理費	2,404	2,749
営業利益	731	219
営業外収益		
受取利息	4	8
受取配当金	6	8
持分法による投資利益	10	—
保険解約返戻金	—	45
その他	32	48
営業外収益合計	55	111
営業外費用		
支払利息	2	2
持分法による投資損失	—	11
その他	1	0
営業外費用合計	3	15
経常利益	782	315
特別利益		
固定資産売却益	0	1
投資有価証券売却益	—	2
収用補償金	—	89
特別利益合計	0	92
特別損失		
固定資産除却損	0	62
特別損失合計	0	62
税金等調整前四半期純利益	782	345
法人税、住民税及び事業税	145	34
法人税等調整額	91	79
法人税等合計	236	113
四半期純利益	546	232
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	546	231



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	546	232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	39
為替換算調整勘定	43	310
退職給付に係る調整額	△12	△16
持分法適用会社に対する持分相当額	60	98
その他の包括利益合計	87	432
四半期包括利益	634	664
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	634	663
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。